

<今日の説教のポイント ルカによる福音書 15 章 25～32 節>

①兄が怒るのは当然？

ここを読むとまず「兄の気持ちも分かる」と思うかもしれませんが。父からもらった財産をしたい放題して使い果たして帰って来た弟。その弟を怒るのではなく大喜びして祝宴まで設けて迎え入れた父。兄が怒るのも当然だと。しかし、父と暮らすことが兄の喜びであったなら、父が言うように、「死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかった」(24, 32)と、180度違う思いであったはず。弟は父の下で暮らせる恵みに気づかされました(17)。しかし、父と暮らしていた兄はまだその恵みの大きさを分かっていたわけではなかったわけ。その恵みとはどういうものなのでしょう？

②今与えられている恵みから考える！

怒る兄の言い分とそれに答える父の言葉を読んで、「ぶどう園の労働者のたとえ」(マタイ 20:1-16)を思い出しました。働いた時間の違いによらない賃金に怒った労働者の話です。彼の問題は、朝から仕事無しの不安から解放された恵みを忘れていたことでした。この兄も同じです。今与えられている恵みを考えなくなる時、私たちは人と比較し、嘆いたり、妬んだりするようになるのです。どんな中にも恵みは与えられています。今この時にも与えられている恵みは何かを考えて感謝することから始める。大事なことです。しかし、この箇所ではもっと大きな恵みが示されています。

③驚くべき神様の恵みの招き！

怒る兄が思う当たり前の内容と、父が思った「当たり前」(32)の内容は違いました。父すなわち神様は、どんな人でもご自分の下に帰って来ることを大喜びなさる神様なのです(放蕩息子はその代表)。さらには、怒る兄をも「なだめ」(28)、宴会に加わるように説得して下さる神様なのです。イエス・キリストをお送り下さった神様はこのような神様なのです。この神様の下に生きられる。一番大きな、素晴らしい恵みです。私たち皆が招かれているのです！